



-changing house-

ある空間を体験するとき、そこで受ける空間のイメージというものは、人の感情や行為によって常に変化する。それは、空間を構成する、ありとあらゆる要素においても同様である。

空間には、柱や壁、扉など、様々な要素が存在するが、それら一つ一つは空間を構成するうえで重要な役割を果たしているにもかかわらず、空間を定義づけるために、その役割は規定され、私たちの意識の外に追いやられてしまう。

空間を構成する要素を抽象化することで、それらを人に知覚させることのできる空間をつくり出す。

普段、私たちが体験しているスケールを取り除き、非日常的なスケールを取り入れる。

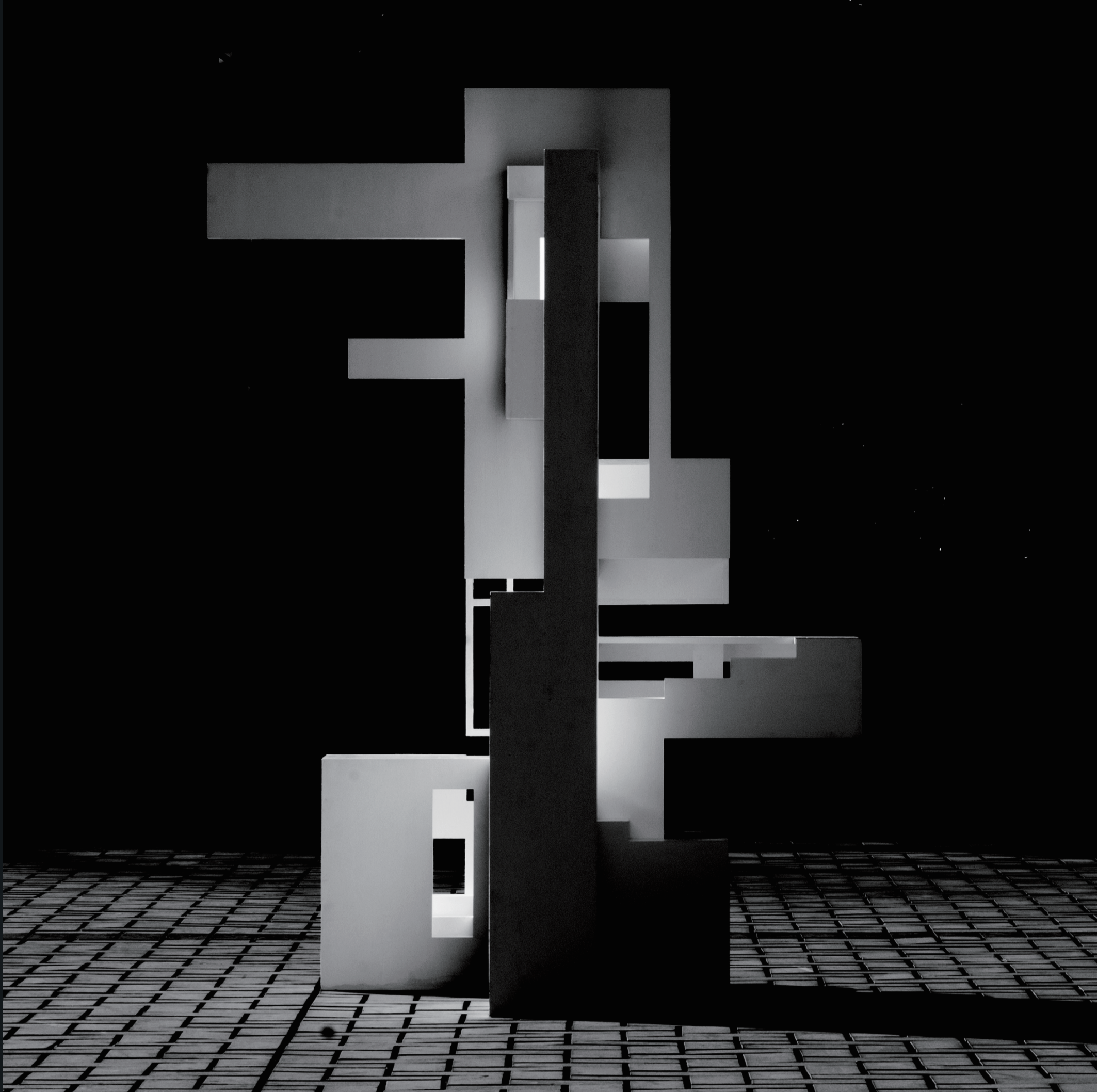
日常生活で意識の外にある要素と、それに伴う空間の認識を変形させ、複雑に配置することで、一つの物に対して二つ以上の意味を与える。

私は、建築は抽象絵画のようだと考えている。抽象絵画は、現実世界に存在する物を表現するのではなく、形や色で、芸術家自身の主観的な世界を表現し、現実世界を超えようとする。

建築においても、空間を構成するあらゆる要素のスケールや空間認識を変形させることによって、主観的に空間のイメージを捉えることが可能となるのではないだろうか。

「形態は機能に従う」のではなく、「人は形態に従う」。そのような空間をつくり上げた。





-写真-

